

男性のワーク・ライフ・バランス に関する調査～日米比較の結果

日本調査

- ・調査対象：日本国内に居住する12歳以下の子どもを持つ父親
- ・調査実施期間：平成23年2月
- ・調査方法：住民基本台帳抽出（層化二段無作為抽出方式）による郵送調査
- ・調査会社：社団法人中央調査社
- ・回収率：2750配布 715回収 有効回収率26.0%
- ・平均年齢：39.2歳（妻の平均年齢：37.33歳）
- ・子ども数：1人32%、2人49%、3人17%、4人2%
- ・子どもの平均年齢：5.25歳



◆回答者の特徴

日本全体の分布と比べて、①高学歴の回答者が多い ②平均収入はやや低い ③専業主婦世帯割合がやや高い ④子どもの数が3人以上いる世帯がやや多い

米国調査

- ・調査対象：ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴ、ヒューストン、フェニックス、ミネアポリス・セントポールに居住する12歳以下の子どもを持ち、配偶者と同居する50歳以下の調査会社の保有パネルの父親（既婚者）。ただし、子どもの年齢が0～2歳、3～5歳、6～8歳、9～12歳の各年代で375サンプルを確保目標とした。
- ・調査実施期間：平成23年12月
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査会社：株式会社日本リサーチセンター
- ・回答者数：1500名
- ・平均年齢：39.6歳（妻の平均年齢：38.0歳）
- ・子ども数：実子1人30.6%、2人49.6%、3人14.7%、4人3.4%。
- ・子どもの平均年齢：5.68歳



◆回答者の特徴

米国全体の分布と比べて、①高学歴の回答者がかなり多い ②白人の割合が高く、アジア系、ヒスパニックや黒人の割合は低い。

1. 対象者の特徴

●通勤勤務時間が長い日本の父親

20代を除いて、日本の父親の通勤勤務時間の平均は米国より1時間以上長いことがわかった。日本も米国も、年代が高いほど通勤勤務時間が長い傾向にあるが、日本の父親のほうがその傾向が顕著である。

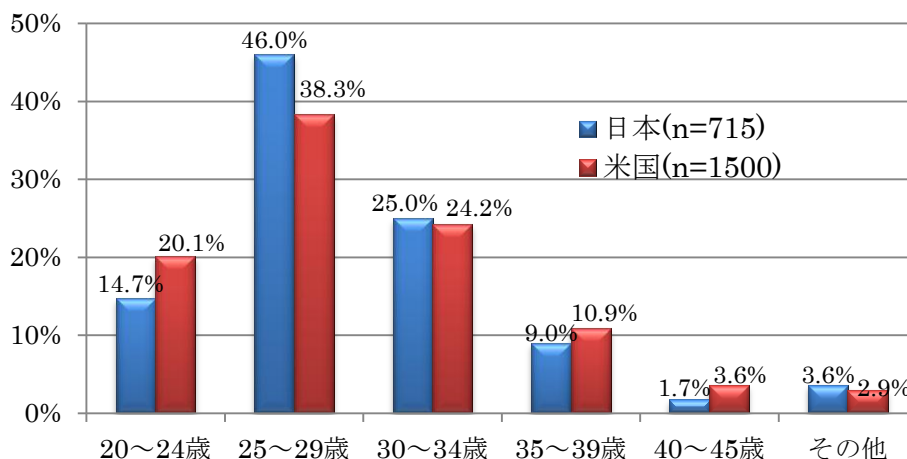
父親の通勤勤務時間の平均

年代	平均通勤勤務時間	
	(日本)	(米国)
20代	10.63	9.75
30代	10.88	9.90
40代	11.13	9.83
50代	11.80	9.97

●25~29歳で結婚した父親の割合が高い

日本と米国の父親に結婚年齢を尋ねたところ、最も割合が高かったのは「25~29歳」とする回答であった。2番目は「30~34歳」で、3番目は「20~24歳」で、日米ともに35歳までに結婚をした人が全体の8割以上を占めている。

結婚時の年齢



●高い父親の家計負担比率

夫婦間での家計負担比率について尋ねたところ、日米で父親の家計の負担比率は妻よりも高かった。また、米国よりも日本のほうが父親の家計負担比率が高い。例えば、20代では父親の家計負担比率の平均は88.42%であるのに対して、米国は70.76%であった。さらに、日本では年代が上がるにつれて父親の家計負担比率が若干下がる傾向にあるが、米国では逆の傾向が見受けられる。

父親の家計負担比率の平均

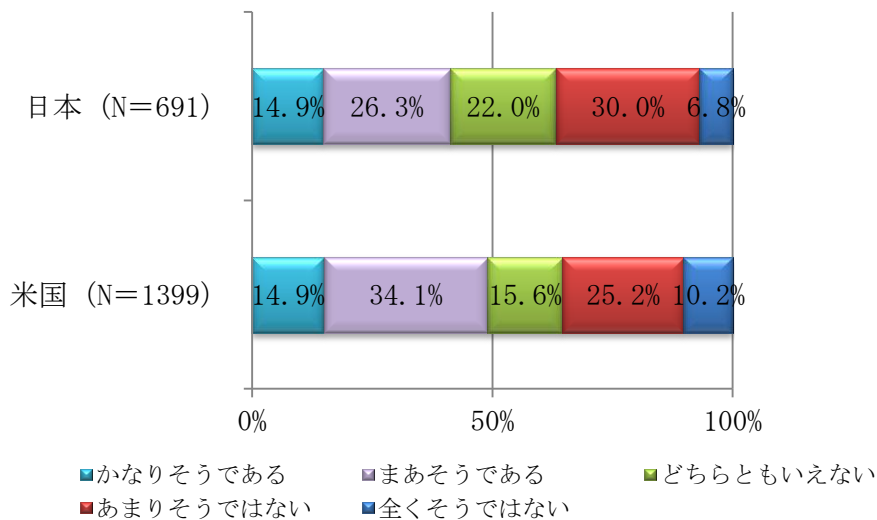
年代	父親の家計負担比率(%)	
	日本	米国
20歳代	88.42	70.76
30歳代	84.16	70.81
40歳代	86.53	73.03
50歳代	82.43	78.85

2. 仕事と子育て

●日米の父親は、仕事と子育ての葛藤を強く意識している

仕事と子育ての葛藤意識についての質問「仕事のために子どもと過ごす十分な時間がない」に対し、日本の父親は「かなりそうである」「まあそうである」に41.2%の人が回答し、米国の父親は「かなりそうである」「まあそうである」に49.0%の人とほぼ同程度である。しかし実際には米国の父親の方が勤務時間が短く、プライベートでの時間的余裕がある。それにもかかわらず、仕事のために子育ての時間がないと感じる程度は日米ともに同程度であることから、日本よりも米国の父親の方が家庭でも子育てをする役割意識を強く持っていることが推察される。

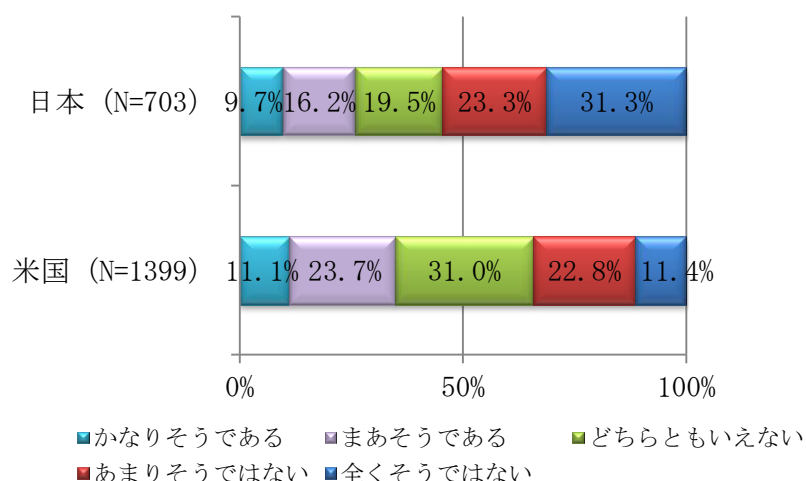
末子12歳以下の父親：「仕事のために子どもと過ごす十分な時間がない」



●日本の職場環境では、男性が育児のための短時間勤務をすることは難しい

父親自身の職場環境に関して「男女に関係なく、育児のために短時間勤務が必要に応じて取得できる」という質問に、日本の父親は「全くそうではない」「あまりそうではない」と約半数（54.6%）の人が育児のための短時間勤務が困難であるという回答をした。一方で米国の父親は「全くそうではない」「あまりそうではない」に34.2%の人が回答した。この結果から米国より日本の父親の方が圧倒的に職場での育児のための短時間勤務に困難さを感じていることが示され、日本では米国に比べ、育児に対する柔軟な勤務時間の取得が浸透して少なく、活用されていないことがうかがえた。

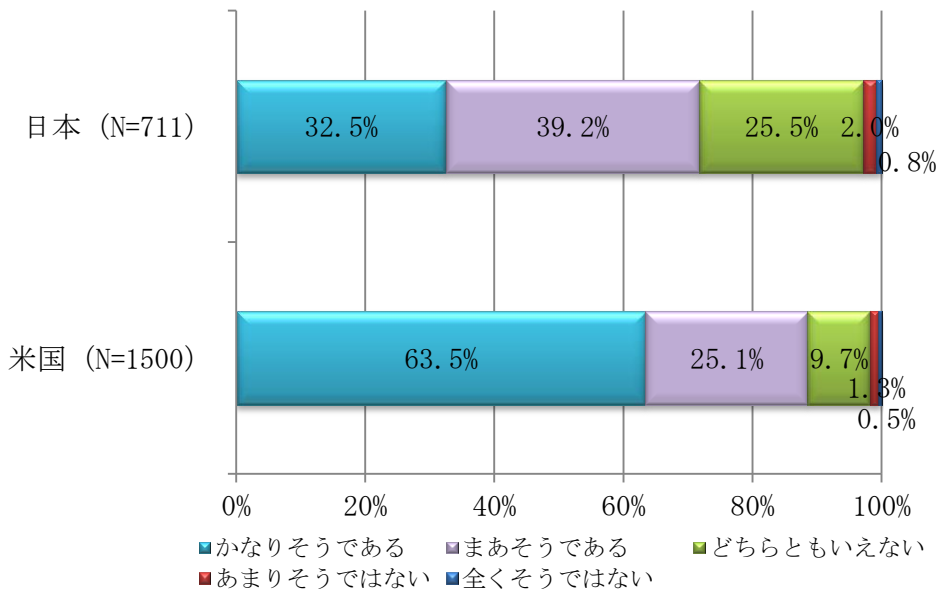
末子12歳以下の父親：「男女に関係なく、育児のために短時間勤務が必要に応じて取得できる」



●「仕事の成功よりも家族の方が大切である」という意識をもつ父親は日米ともに多い

父親自身の就労意識について、「仕事の成功よりも家族の方が大切である」という質問に対し、日本の父親は「かなりそうである」「まあそうである」と回答した人が 71.7%で、仕事より家族を優先する意識があることを示した。米国の父親はさらにその意識が高く「かなりそうである」「まあそうである」と回答した人が 88.6%であった。この結果から子育て期の日本の父親は、大半の人が仕事より家族を優先するものの、米国の父親に比べるとその程度がやや低く、この違いが実際の育児・家事参加にも違いをもたらす可能性があることがうかがえた。

末子 12 歳以下の父親：「仕事の成功よりも家族の方が大切である」

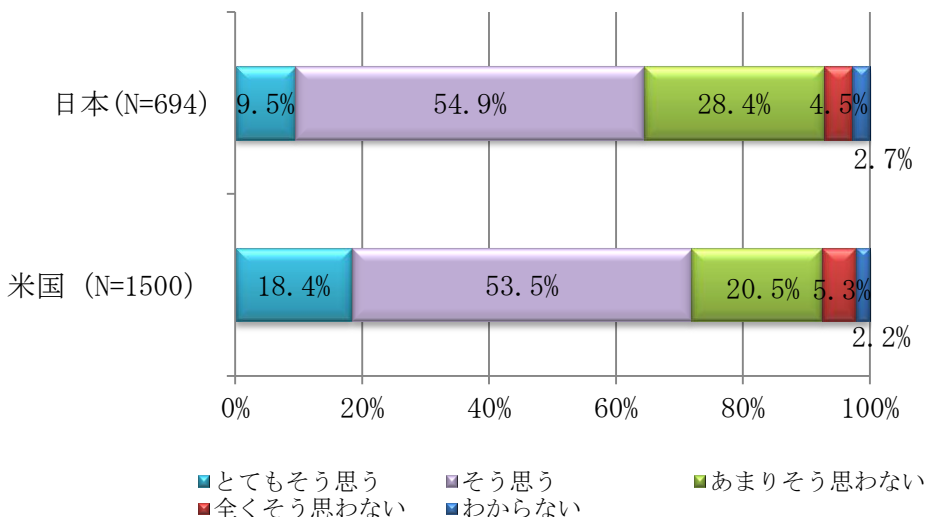


●日本の父親の約 6 割、米国の父親の約 7 割は仕事と生活の両立をしているという認識である

「仕事と生活の両立をなさっていると思いますか」という質問に対し、日本の父親の 64.4%は「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と回答した。これに対し米国の父親は「とてもそう思う」と「そう思う」に 71.9%が回答しており、仕事と生活の両立を実感している。

日本でも、6 割を超える男性が両立していると感じているが、実際の子育て・家事頻度は米国に比べてかなり低く、子育て頻度は、米国の父親で週 5~6 日であるが、日本の父親は週 3~4 日、家事頻度は、米国の父親で週 3~4 日であるが、日本の父親は週 1~2 日と少ない。

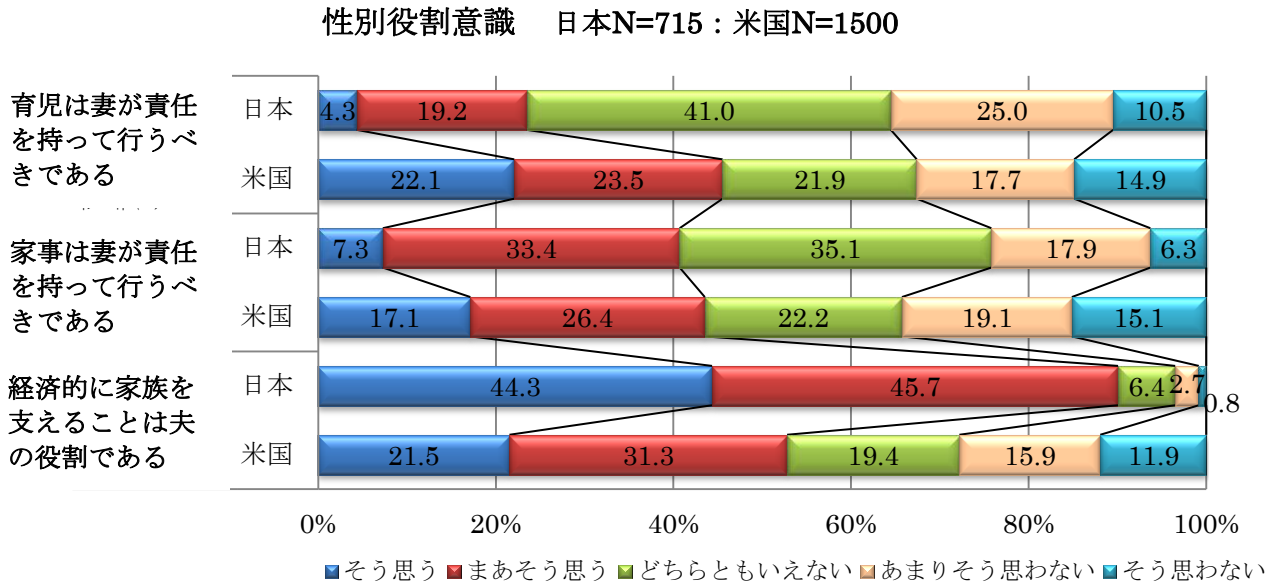
末子 12 歳以下の父親：「仕事と生活の両立をなさっていますか」



3. 家族意識

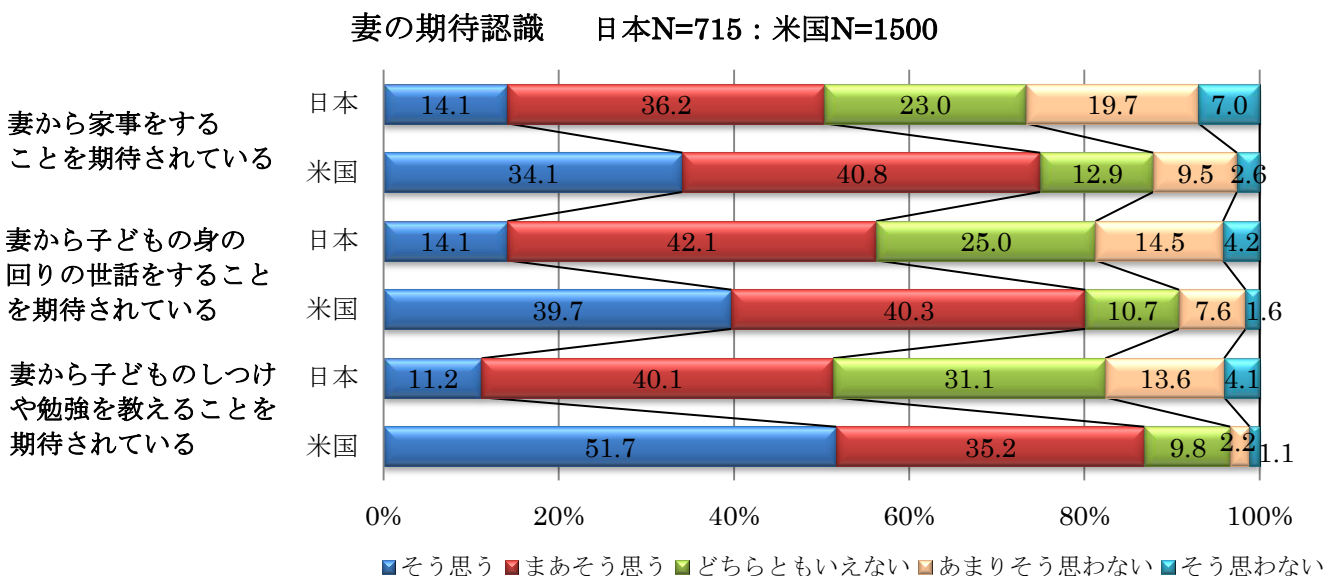
●妻の育児役割意識は米国の父親の方が高く、経済的役割意識は日本の父親が断然高い

「育児」を妻の役割とする肯定的回答割合は、日本の父親より米国の父親の方が倍多く、特に「そう思う」と回答した割合は米国の方が5倍も多いが、否定的回答の割合はあまり変わらなかった。経済的役割意識に関しては、日本の父親の90%以上が肯定的回答であるのに対して米国の父親は約50%強の回答であった。



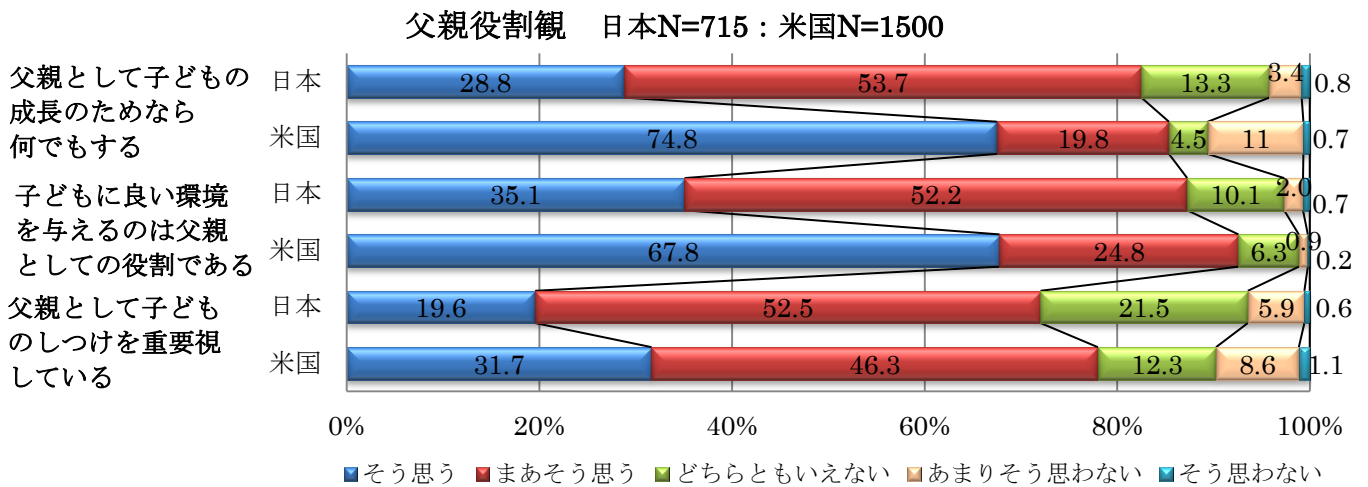
●米国の父親の妻への期待は日本より高い

妻から父親役割を期待されているかどうかを尋ねたところ、米国父親のほうが期待されていることがわかった。特に米国の父親の子どものしつけや勉強に対する妻の期待は大きく、日本の父親とは逆のパターンになっている。



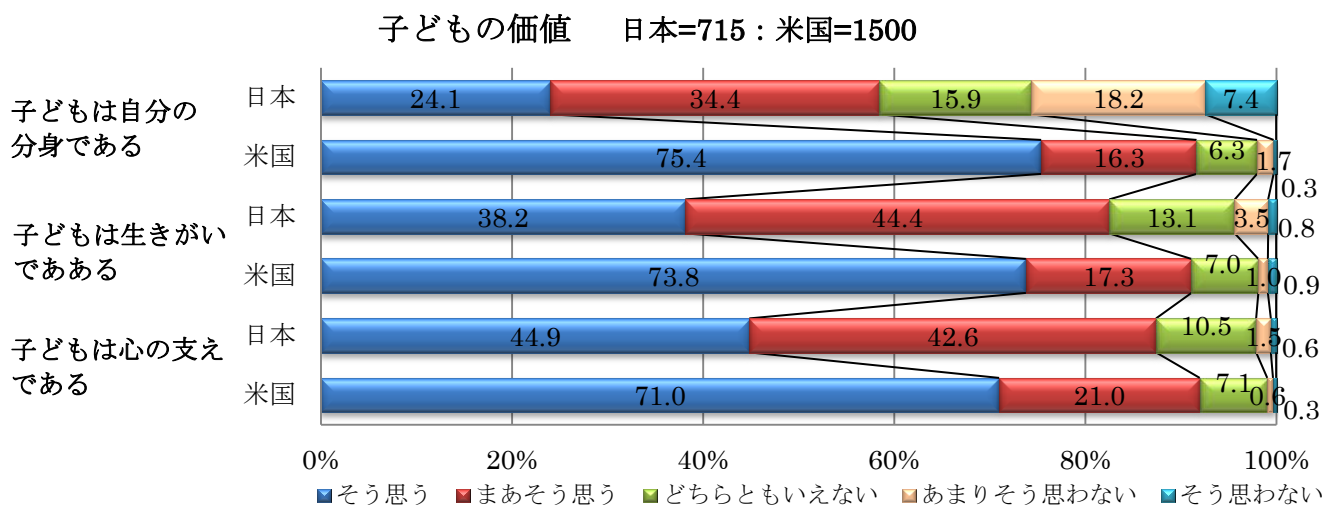
●米国の父親の親役割観は日本の父親よりも高い

日本の父親と米国の父親ともに約 8~9 割が肯定的な父親役割観を持っているが、日米を比較して特徴的なのは、米国の父親が「そう思う」と強く肯定する割合が多いことである。特に子どもの成長のためなら何でもするという項目に関しては、米国の父親の約 75%が「そう思う」と回答しているのに対し、日本の父親は約 29%のみの回答である。



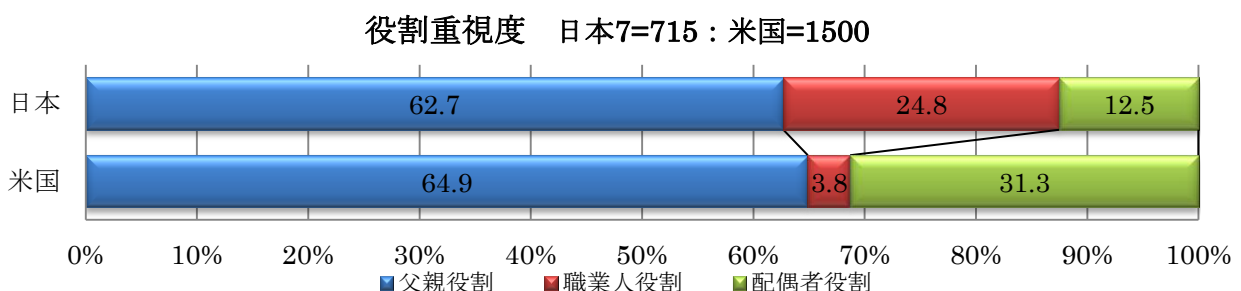
●子どもの価値に対して米国の父親の高い認識

全ての項目において、米国の父親は日本の父親よりも子どもの価値は高いと回答している。特に、「子どもは自分の分身である」に関しては、米国の父親の「そう思う」人の割合が約 75%であるのに対して、日本の父親は約 24%とかなりの違いを示している。



●父親役割重視度は米国の父親が高く職業人役割重視度は日本の父親が高い

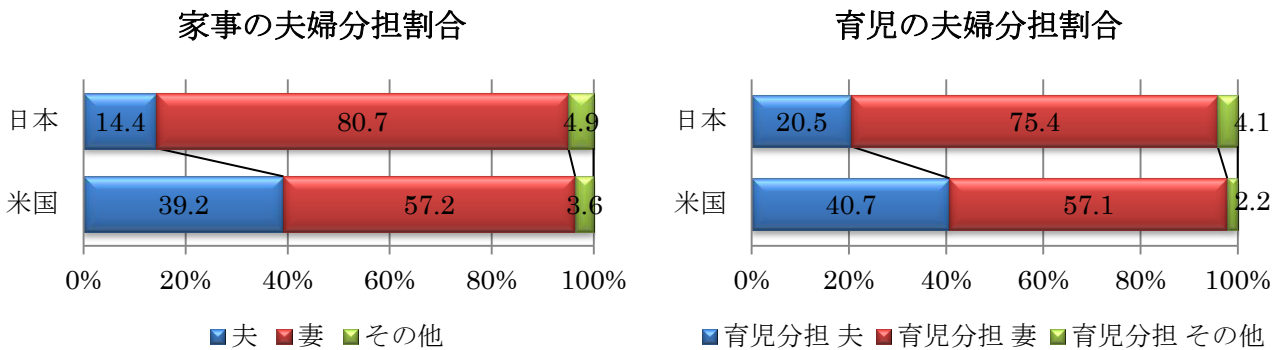
「父親」「職業人」「配偶者」のどの役割を一番重要視しているのかを尋ね、1番~3番の順番を付けてもらった中で、1番の割合を示した。父親役割重視度は米国父親が高く、日本では職業人役割を1番とする回答割合が約 25%であるのに対し、米国父親は約 4%である。



4. 家事・育児参加と育児支援

●米国の父親のほうが日本の父親より、家事・育児をしている

家事育児の分担割合をみると、日本の夫の分担割合は2割ほどであるのに対して、米国の夫は4割である。

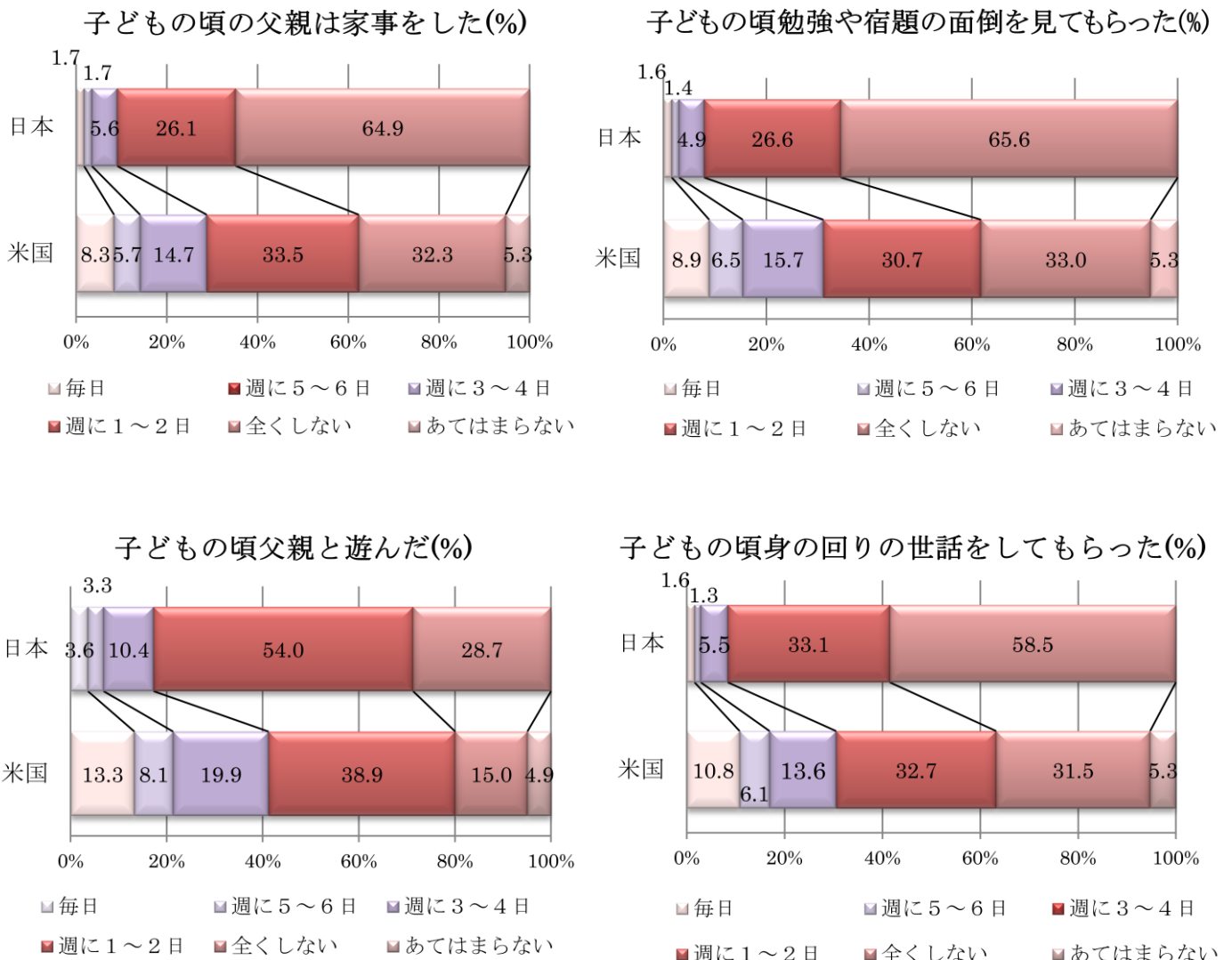


●米国の男性対象者自身の父親の家事・子育て頻度は、日本より高い

対象者である男性の父親の家事・育児頻度の比較をした。男性の父親の育児頻度は、日米ともに、週に1～2日が多かった。

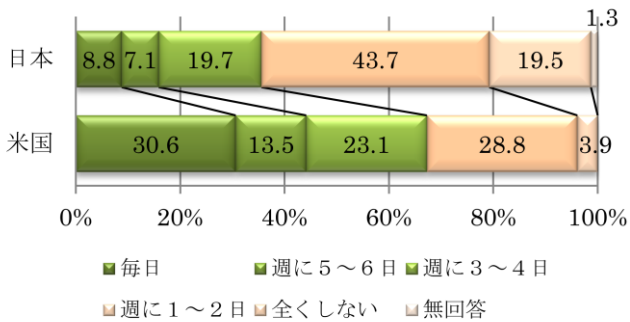
一方、対象者の男性自身の家事頻度に関しては、米国の父親のほうが日本の父親より高い。

[対象者の父親の家事・育児]

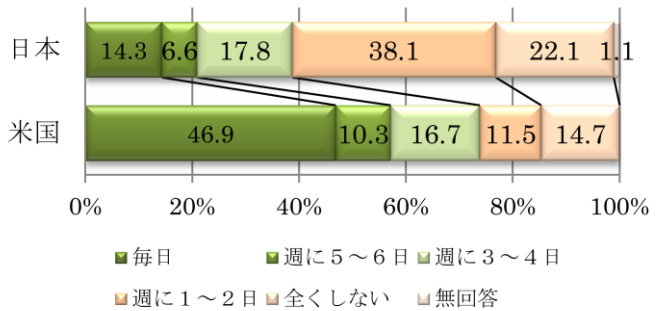


〔男性対象者自身の育児〕

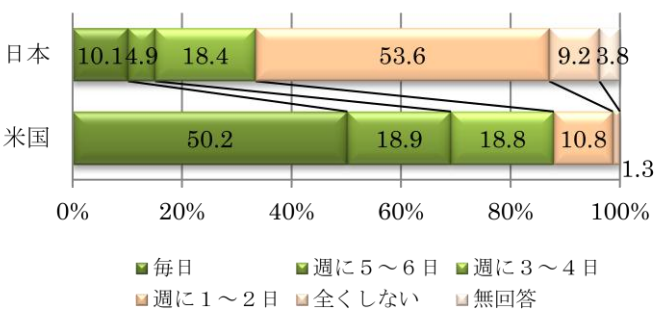
子どもの着替えや身支度の世話をする(%)



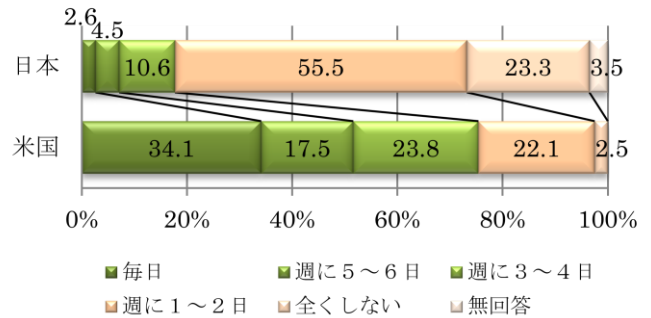
子どものオムツやトイレの世話をする(%)



子どもと一緒に遊ぶ(%)



子どもの勉強や習い事の面倒をみる(%)

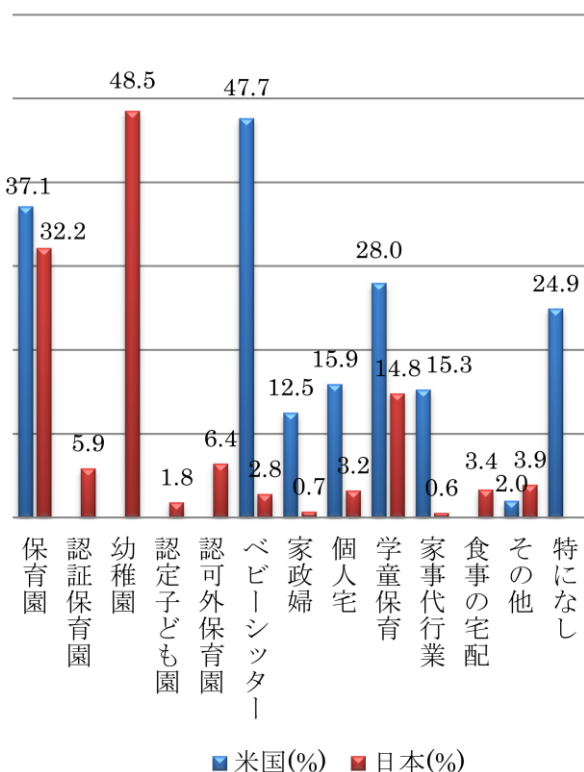


●米国の親は、ベビーシッターや家事代行サービス・家政婦を利用する割合が日本の親に比べて高い

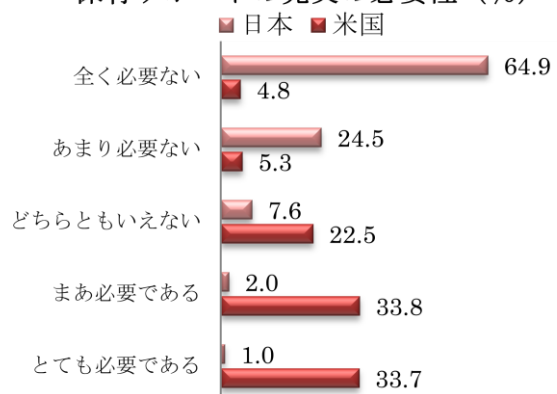
親族以外で、利用した支援サービスは、米国では、保育園以外ではベビーシッターや、個人宅、日本では、保育園や幼稚園が多かった。米国では、家事代行業や家政婦の利用割合は、日本よりかなり多い。(ただし、米国では、幼稚園は、小学校教育の範囲にはいるので、本調査の質問項目には入れていない)

また育児と仕事を両立するために必要な政策では、米国では、保育サービスや育児休業制度の拡充を必要とした男性が7割をしめたが、日本では、必要ではないとした人がほとんどであった。

子育てに関し、利用した施設や支援サービス(%)



保育サポートの充実の必要性(%)



育児休業制度の拡充の必要性(%)

